

# News Letter

Vol.2

日本宗教研究諸学会連合

2018.4

## 委員長 挨拶

日本宗教研究諸学会連合  
委員長 島蘭 進

日本宗教研究諸学会連合は、発足以来9年目の昨年からニュースレターを発行し、拡大運営委員会を開催するなど、皆さまとのコミュニケーションをより円滑に行うべくなど、新たな歩みを進めております。

大学での研究・教育のあり方が問われています。文系の学術のあり方が軽視されているのではないかとの懸念が高まっています。当連合としましても、関連諸学問分野と連携しつつ、基礎的研究の意義を確認するとともに、「実利」追求によって自由な学問研究が歪められるようなことがないよう、学術と社会の関わりを問い直していく必要があると思います。



## 昨年度の活動報告



- 日本宗教学会第76回学術大会で特別セッション「大学制度から近代日本の宗教研究を再考する」を共催しました。
- 日本学術会議哲学委員会公開シンポジウム「恐怖を哲学する—フィアー・ホラー・テラー—」を共催しました。例年に比べ、学生など若い参加者が目立つ会となり、後日、HP上で質問に回答したことも好評でした。

※全て詳細な報告をHPにてご覧いただけます。

## 発行

日本宗教研究諸学会連合事務局

jfssr20084@gmail.com

このNLは本連合のHPにも掲載しています

## 日本学術会議の取り組み

人文社会科学に理解がある、山極寿一前会長の下、次のような重要課題に取り組んでいます。

- 軍事研究問題（183大学にアンケートを実施。集計結果を学術会議HPで公開中）
- ゲノム編集技術問題（委員会を立ち上げ提言を发出する予定）
- AI、自動運転と倫理問題
- SDGsと学術の関係
- CSTIで会長が研究者コミュニティを代弁

## お知らせ

- 9月10日（予定）の日本宗教学会第77回学術大会で特別パネル「宗教研究の振興と学会・学会連合の役割」を共催します。コメンテータに学術会議井野瀬前副会長を招聘します。
- 11月23日に日本学術会議哲学委員会主催公開シンポジウム「科学技術の進展と人間のアイデンティティー—哲学・倫理・思想・宗教研究の役割—」を共催します。詳細はHPで逐次広報します。
- 貴学会が主催するシンポジウムや学会企画を、本連合から（運営委員会が審議した上で）共催／後援します。事務局にご申請ください。